

指導員のみなさんと一緒に叶えたい!

2030年のビジョン

～自然観察指導員養成計画2030より～



自然観察指導員のさらなる活躍のため、ひいては日本の自然保護をさらにすすめるため、NACS-Jは 2030 年に叶えていたいことをまとめました。本紙を参考に、みなさんもライフスタイルや活動を一工夫しませんか。

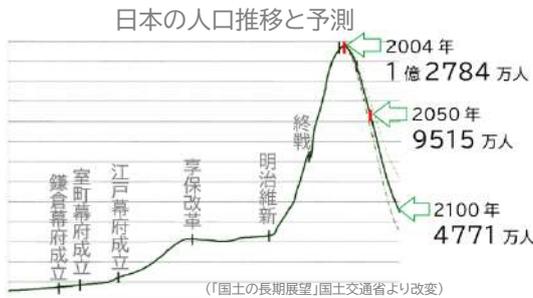
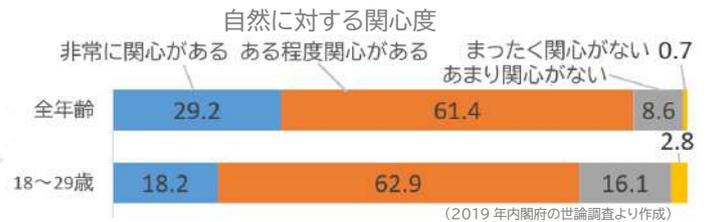
今、日本はどんな状況？ これからの社会は？

まずは社会の状況と、それを加味してNACS-Jがめざす方向性をご紹介します。

① 自然好きは少数派!

世論調査によると・・・

- ・自然に非常に興味がある方は3割弱
- ・若い世代では10%台にとどまっている
- 自然好きではない人に自然好きになってもらいたい



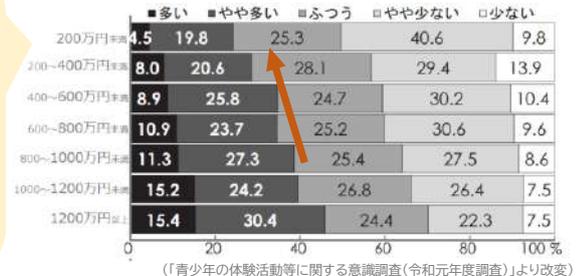
② 有史以来日本人が経験したことがない人口激減と高齢化

- ・日本の人口は急激に減少し、2100年には 2004 年の3分の1に。
- ・人口の4割以上が65歳以上になる
- ・人手不足の社会を支えるため、65歳以上も働くため、退職者のボランティアが減少
- ボランティアだけに頼らない自然保護教育を作りたい

③ 将来、自然を大切にする大人が減ってしまう?

- ・自然を重視するか否かは幼少期の原体験が影響する
- ・所得が低い世帯は自然体験が少ない傾向がある
- ・貧富の差は広がっている
- ・このままだと自然体験が少なく、自然に思いを持たない大人が増える
- 所得に関係なく、子どもが自然の原体験をもてるようにしたい

世帯年収ごとの子どもの自然体験



④ 身近な生きものの地域絶滅が進行している

- ・2018年までの10年間に複数の身近な生きものの減少が全国調査でわかった
- ・例えばヒヨドリが絶滅危惧に相当するほどの規模で減少している
- ・当たり前の生きものが当たり前でなくなりつつある →身近な自然に地域の多くの人が価値を感じられるようにしたい



⑤ コロナで自然観察会が予定通りできない?

- ・人や自然と関り、仲間を作る自然観察会は、ある程度人と人が近づく
- ・フィールドマナーと教育の為に1つの生きものをみんなで観察することもままある
- 感染症拡大期にもできる自然保護教育活動を作りたい

⑥ 個人の可能性が大きくなっている

- ・働き方が多様になり、インターネットの活用もすすみ、組織に属さずとも、あらゆる活動ができるようになった
- この自由さと個々の多様な指導員の可能性を活かした活動を応援したい

＼2030年に叶えたいイメージは？／

自然観察指導員のみなさんと一緒に 2030 年に実現していきたいこと(ビジョン)3つをご紹介します。

過去には自然観察会と結びついていなかったシーンでも
自然のしくみや魅力に気づくことのできる機会が社会に溢れており、
境遇や自然への関心の高さにかかわらず多様な人が、その機会に参加している。

<イメージ>

結婚式の引き出物に居住地の在来種の
種セットが!育ててみると楽しい!

飲み屋の庭に「セミ羽化見れます」と
いう看板が!?寄ってみたら、飲みより
充実した時間に!



ゲームのキャラに似て
る本物のきのこを探す
イベントに参加したけ
ど、きのこって本当に
あるんだ!

お金がなくてずっと家にいたけど、公
園にもカッコイイ虫がいっぱいいること
に驚いた!



自然観察指導員によって豊かな自然がまもられ、自然との関わりの少なかった人でも
何度でも行きたくなる、自然の恵みを実感できる魅力的な場所がある。

<イメージ>

あの森に行くといつも親切に話しかけてくれる指導員さんがいて心が安らぐなあ。

散歩で森に行った時、指導員さんが土と森、野菜の関係を見せてくれた。森が私の命とつながっているとわかり感動した。自然に心底感謝するようになったし、あの森は大切な場所になった。



学校でのけ者にされて落ち込んでたけど、森にいる人と、草や虫と遊ぶのは楽しい。他校の友達もできて、ちょっと自信がついた!

夫婦仲が悪かったけど、森の演奏会に参加して、感動を共有できた時に新婚時代を思い出した。そこから、妻との関係がよくなった。あの森は我々の二人目の仲人だ。



自然観察指導員は、自然観察や自然保護活動、日常の仕事や生活を通して影響力がある存在で、社会的にかっこいい、信頼感がある、というイメージが世代によらず社会に定着している。

蛭池と呼んできた池はひどく荒れてたが、指導員の人達が来てからは、人がいっぱい来とるのに自然は豊かになったなあ。またこの池で蛭が見れるとは幸せじゃ。あの人らには感謝しとる。

子どもの貧困についてのテレビ特集の中で、体験格差に取り組む指導員が紹介されていたけど、あの眼差しってすごく深かったな。

<イメージ>



営業成績トップの彼は、社内で認証紙への変更や、森林保護ができるコーヒーへの交換を提案していたが、ついにSDGs推進部の部長になった。提案力や実行力もあるし、憧れるな。どうやら自然観察指導員という肩書もあるようだが、私も学ぼうかな。

公園で自然観察会をしてるお兄さん、いつも優しく、虫にも詳しくてかっこいいな。

＼実現の方法は？／

ビジョンを実現するための計画は、大きくわけて4つの内容で作成しています。

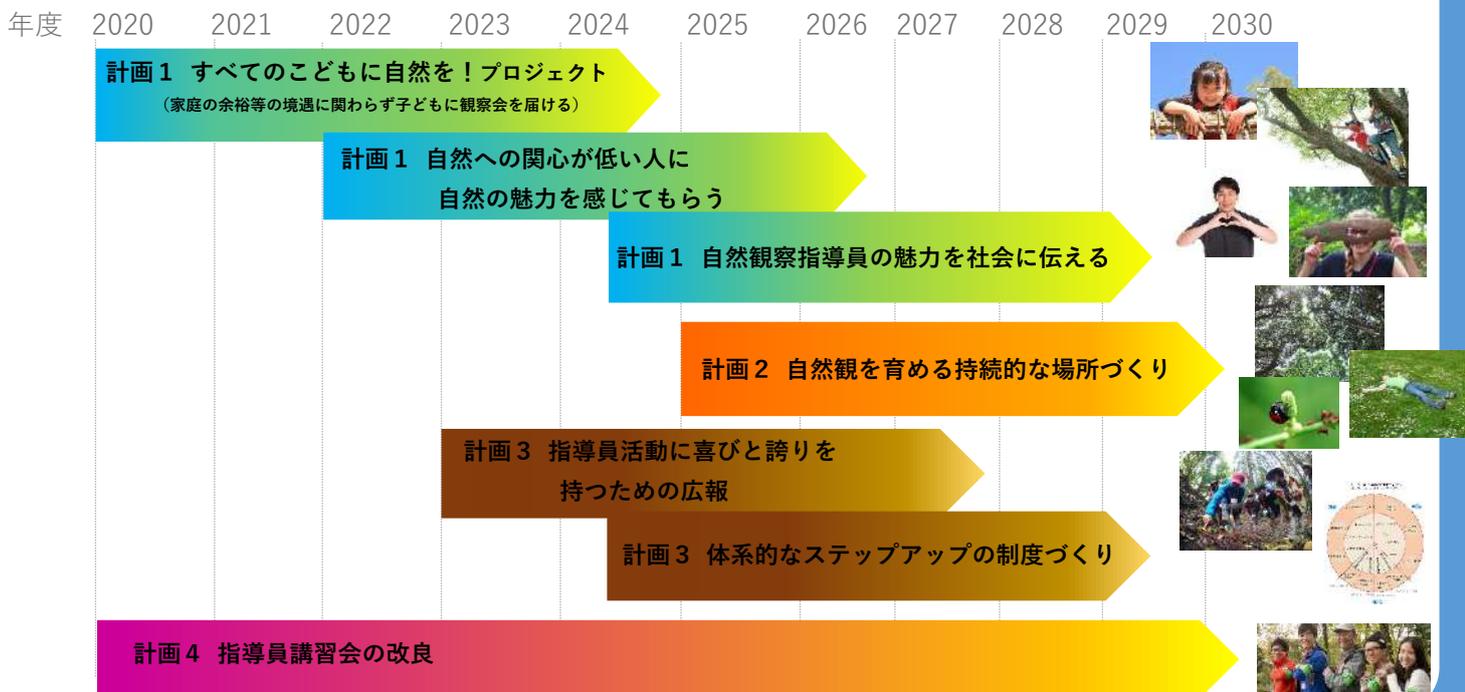
活動計画

1. 関心・境遇によらず自然の魅力に気づくことのできるきっかけの創出
2. 自然の恵みを実感でき、どんな人も惹きつける機能をもった場所づくり
3. 自然観察指導員のフォローアップ
4. ビジョンに共感する自然観察指導員の仲間、新規登録者数を増やす

<解説>

1で、“浅くても広く”自然に関心を持つ方を増やし、2で“まずは一部の地域からでも、深く”自然観を醸成し、地域の身近な自然保護を実現します。3の機会を増やして指導員の方にさらにご自身が願う活動を実現していただき、4では身近な指導員に魅せられた方や本計画のビジョンに共感する、新しい指導員仲間を増やして、さらに自然保護教育を広めていきます。

<計画毎の概要とスケジュール> ※2021年度改訂



＼ぜひ一緒に未来をつくりませんか？／

指導員の方へのお願い ～ちょっとした日常の工夫から～

これからは個人の嗜好や行動の多様性がさらに増していきます。そんな中では、「指導員活動」も個性を活かした十人十色の多様な活動が鍵になります。本紙で興味をもたれた内容について、小さくてもアクションしていただきたく、お願いをまとめました。

お願いその① ビジョンをご自身にあてはめてイメージしつつご理解いただく

NACS-Jはビジョンに向かって精一杯頑張ります。皆さんにもぜひご理解をいただきたいです。ご不明なことはNACS-Jにお尋ねください。

お願いその② 日常や仕事でも自然保護教育ワンアクション

自然に関心がない人や、自然観察会に参加できないような境遇の人にも、自然の魅力に気付く機会をとどけるために、過去の慣習にこだわらず、個性を活かして柔軟に工夫していただけると心強いです。（今は自然に全く無関心な人や、観察会に全く参加していないコミュニティの人にどうやったら観察会を届けられるか？という問いがきっかけに使えるかもしれません。）

<実施アイデア例>

- ・SNSで自分が指導員になったと公開し、気持ちをシェアする（まずはここから!）
- ・水族館に行った際、魚に独自の名前を付けてみる（やると楽しい!）
- ・ランニング仲間と、街中と自然が多い場所とで音やにおいの違いを感じてみる
- ・カフェや駅、お葬式やライブなどでも自然の魅力に気付くしかけを作ってみる



お願いその③ 自然の恵みに気づく工夫を散りばめる

- 自然観察会では、自然を楽しんだり知るところで終わらず、一步踏み込んで、相手に「自然は“自分にとって”大事なのだ」と感じてもらえると素敵です。
- 例えば、自然の“恵み”を実感できるプログラムを入れたり、ご自身がなぜ自然保護活動をしているかさりげなく伝えたり、といった工夫はいかがでしょうか。
- みなさんが自然観察指導員講習会を受講された動機はなんででしょうか。それを話すだけでも、心に響くものがあるかもしれません。



本計画に関する具体的な活動や予定一部紹介

- ① 2020 年度は全国の自然観察指導員有志のみなさんと、実行委員会を作り、相対的貧困にある家庭の子どもにも自然の原体験をいかに届けるか、という検討をすすめています。
- ② 2021 年度～2023 年度頃は、自然への関心が低い人にうまく自然の良さに気づく機会を作れたという事例をみなさんにお聞きする予定です。一部アイデアについては全国に広げるべく、NACS-Jから協働のお願いをさせていただく予定です。
- ③ 2024 年頃からは、体系的に整理された指導員向けの研鑽の場を作る予定です。オンラインなども活かして、全国の皆さんに届く機会を作りたいと思っています。